

## 【実践報告】

## 「信大YOU遊世間」の「地域ブランド」としての特質

土井 進

## 1. はじめに—地域ブランドとは何か—

ブランド (brand) とは、岩崎民平・小稲義男監修『新英和中辞典』(研究社)によれば、(商品・家畜に押す)焼き印、品質、銘柄、商標 (trademark) のことである。このようなブランドは、消費者の購買行動において、商品そのものよりもブランド・イメージが大きく作用していることが、事実として早くから知られている。

村山研一(2007)によれば、「地域ブランド」という用語は、数年前から使われ始めた言葉であり、二つの用法が存在していると指摘している。そして、その2つを次のように区別している。「第一は、地域の産品に地域名をかぶせてブランド化を計るという意味で使われており、地域産品を地域産品としてブランド化を計ることを指す。第二は、地域そのもののブランド価値を高めるという意味で使われており、場所そのもののブランド化を計ることである。」<sup>1)</sup>この両者がどのような関係にあるかについて村山は、前者を「「産品ブランド」もしくは「狭義の地域ブランド」」と呼ぶことにし、後者を「地域ブランド」(もしくは「広義の地域ブランド」)と命名して区別している。そして、この両者の関係を分かりやすくするために、大きな傘として示される「地域ブランド」の下に個々の「産品ブランド」が位置付くように図解している。<sup>2)</sup>

本稿において重要になってくることは、村山が指摘しているように「「産品」という言葉を単に「もの」に限定しないで、景色、観

光、地域で可能となる体験、このようなものも含む広範な概念であると理解しておく必要がある。」<sup>3)</sup>と論究され、「地域で可能となる体験」が広義の「地域ブランド」として位置づけられることを明確にしていることである。ここに、「信大YOU遊世間」という学生主体の地域貢献活動を広義の「地域ブランド」として位置づけ、その特質について考究する意義がある。

## 2. 地域ブランドとしての「信大YOU遊世間」の特質

「信大YOU遊世間」という信州大学の学生による特色ある地域貢献活動は、平成22年度(2010)度で17年目を迎えている。しかし、この名称から直ちに「地域ブランド」としての内容をイメージすることは容易ではない。説明する方も一言では説明しがたい。そこで、この活動の内容を理解しやすくするために、「信大YOU遊世間」の英語訳<sup>3)</sup>を次のように定めた。

Shinshu University Students' Project  
"YOU-you World", Where Students,  
Children, Parents and Citizens gather and  
enjoy themselves together.

平成22年度は、「信大YOU遊世間」という「地域ブランド」の傘の下で、次の9つの「産品ブランド」が活動している。プラザ名(「産品ブランド名」とその活動場所を示すと、次の表1のようになる。

これらの地域貢献活動に共通している特質を5点にまとめ、次に考察することにした。

表1. 「信大YOU遊世間」における「製品ブランド名」と活動場所

	プラザ名（「製品ブランド名」）	主な活動場所
1	「信大茂菅ふるさと農場」	長野市茂菅の「信大茂菅ふるさと農場」
2	「信大茂菅農業義塾」	同上
3	「あっぷるず」	長野市茂菅の林部リング園ほか
4	「湯谷小子どもランド」	長野市立湯谷小学校体育館、檀田公民館
5	「青木村えがおクラブ」	青木村文化会館ほか
6	「麻績村dE遊ぼう」	おみ図書館、麻績小学校体育館ほか
7	「信州すざか農業小学校」	須坂市豊丘地区の水田と畑ほか
8	「信州大岡ふるさとランド」	放課後子どもプラン「わらわら塾」ほか
9	「第9回YOU遊フェスティバル」	信州大学教育学部キャンパスほか

### 3. 「地域ブランド」を学術研究として実践

「信大YOU遊世間」の前身である「信大YOU遊サタデー」は、6週間の教育実習を終えた3年次生の間から起こってきた、もっと子どもたちとふれあう実践を積みたいという要望が起爆剤になった。学生たちの教員としての力量形成への真摯な願いに応えるには、第2土曜日が休日となった子どもたちに、教育学部キャンパスに来てもらえば良いのではないかと考えた。教育学部に子どもたちを迎えて教育活動をする以上、当然学部側に責任が生じてくる。機関としての責任は学部長が負い、企画の全体についての責任は筆者が負うことになり、学生が行う講座の内容については、学生が所属する研究室の指導教員の協力を得て実施することになった。

「信大YOU遊世間」は、大学の名をもって地域社会に働きかける教育活動である以上、体験的学習の指導においても、単なる遊びやお祭り騒ぎに終始するものであってはならない。研究的な姿勢を持って教育実践に取り組み、教育実践から得たことを振り返り、学術的にまとめていく努力がなされなければならない。これが「地域ブランド」としての「信大YOU遊世間」の原点である。この学術的

研究という原点だけはしっかりと維持発展させていかねばならない。「信大YOU遊世間」の実践を学術的な研究として価値あるものとしていくために行っていることは、毎回の活動後に学生スタッフによるリフレクションを行い、記録用紙に記述している。それを資料として年度の終わりに実践記録を報告書としてまとめてきている。報告書の表題は、『「信大YOU遊世間」の教師教育学研究』である。平成22年度は第17集となる。

自発的・能動的な学生の地域貢献活動を通して、学生が望んでいることは何かと言えば、それは教師に求められている「実践的指導力」の基礎を習得する事であると私は捉えている。では、「実践的指導力」とは何かについて次に考察する。

#### 3.1. 実践的指導力の概念

日本教師教育学会第15回研究大会の開催要領（2005年4月）では、多様な見解がある実践的指導力の概念について、「教科指導・生徒指導・学級経営・地域教育等の教育実践に関する包括的な指導力を兼ね備え、子ども・学校・地域の実態に合わせて柔軟かつ創造的に指導内容・方法を採用し、それを遂行する能力」であると示している。そして、実践的

指導力とは、「学級経営・生徒指導・教科指導や校務分掌など、どれかのみ通じる能力ではなく、トータルな遂行能力」であるとも述べて、実践的指導力が総合的な力量であることを強調している。

そもそも教師に実践的指導力が求められるとしてこの言葉が初めて使われたのは、教育職員養成審議会答申「教員の資質能力の向上方策について」（1987年12月）においてであった。そこでは実践的指導力の概念が次のように示された。

「学校教育の直接の担い手である教員の活動は、人間の心身の発達にかかわるものであり、幼児・児童・生徒の人格形成に大きな影響を及ぼすものである。このような専門職としての教員の職責にかんがみ、教員については、教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力が必要である。」

その後、1998年7月の教育職員養成審議会第一次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」においては、教員の養成段階にある学生が習得すべき実践的指導力の基礎とは「採用当初から学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力」であると示している。これらの答申から考えられることは、実践的指導力とは学級経営においても、教科指導においても、さらには生徒指導においても、教師が児童・生徒と関わりながら教師としての本領を発揮し、職務を遂行していくことのできる力量であると捉えられる。ここで重要なことは教科指導において「各教科」の専門的知識を児童・生徒に習得させるという教師の職務を遂行するためには、教師と児童・生徒の間に心のふれあいが

裏打ちされていることである。このことは生徒指導や学級経営においても全く同様で、人間としての生き方・在り方の指導が遂行されていくためには、教師と児童・生徒の間に心のふれあいが裏打ちされていることが不可欠である。実践的指導力の概念について考察する時、我々は教科指導・生徒指導・学級経営のいずれを遂行するにも、児童・生徒との心のふれあいが裏打ちされていることが不可欠であることがわかる。

### 3.2. 実践的指導力の3要素

実践的指導力はそれが機能するためには、教師と児童生徒の間に心のふれあいという裏打ちが必要であることを上に述べたが、このような実践的指導力の裏打ちとなる資質・能力とは一体何であろうか。先に引用した教養審答申（1987年）で示された実践的指導力の概念を次の3つの要素に分類することによってそのヒントが得られるのではないかと考える。即ち、第一の要素を「教育者としての使命感」。第二の要素を「人間の成長・発達についての深い理解」と「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」、そして第三の要素を「教科等に関する専門的知識」と「広く豊かな教養」というふうに分類してみるのである。そして、この3要素を並列的に捉えるのではなく、教科指導・生徒指導・学級経営等の具体的な教育実践に直結する資質・能力として第三の要素を充て、第一と第二の要素は第三の要素を裏打ちする資質・能力であると捉えるのである。このように実践的指導力を3つの要素に分類し、それらの資質・能力が三重に重なりあう構造として捉えるのである。そして、第一・第二の要素が第三の要素の基礎となっていると捉えれば、養成段階における実践的指導力の基礎の陶冶の内実を究明する手がかりが得られやすくなると考えるのである。

この3要素が重なり合って機能する様は、光の三原色の構成図に模して考えると明確になる。光の三原色である「赤」「青」「緑」を重ね合わせると、三色が重なった真ん中の部分は透明になる。この原理を実践的指導力の構造に当てはめて考えてみると、上述の三つの資質・能力が重なり合って機能している真ん中の部分こそが実践的指導力であると捉えることができる。即ち実践的指導力とは、教師が備えるべき資質能力の3要素が重層的に機能して発現する力であり、教師が教師としての本領を発揮して教育活動をしているときに、自ずと児童生徒の人間形成に作用している資質・能力であると考えられる。

### 3.3. 授業の3要素に対応した「人間理解力」「教材開発力」「授業組織力」

実践的指導力を構成している3要素を、授業の3要素である「子ども」「教材」「教師」、並びに教員養成カリキュラムの3要素である「教職科目」「教科専門科目」「臨床経験科目」に対応させてみることによってどのようなことが考えられるであろうか。まず第一の要素である「教育者としての使命感」を「教師」に対応させ、第二の要素である「人間の成長・発達についての深い理解」と「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」を「子ども」に対応させ、そして第三の要素である「教科等に関する専門的知識」と「広く豊かな教養」を「教材」に対応させてみる。そうすると第二の要素の対応関係から浮かび上がってくる教師に求められる資質・能力とは、子どもに寄り添うことのできる「人間力」やコミュニケーション力であると考えられる。そして、このような人間どうしの関係性を築いていく資質能力の基になるのは、教員の養成段階にある。学生にとっては深い「友情」(Friendship)を体験することであり、教員

養成における「臨床経験科目」が深く関わっていると考えられる。

次に第三の要素の対応関係から浮かび上がってくる教師に求められる資質能力とは、子どもの学びを引き出す「教材開発力」である。これは端的に「学問」(Scholarship)の力によるものであり、教員養成における「教科専門科目」が深く関与しているといえよう。

最後に第一の要素の対応関係から浮かび上がってくる教師に求められる資質能力とは、「子ども」と「教材」を結んで学びを成立させる「授業組織力」であり、教員養成においては「教職科目」が深く関与しているといえよう。子どもを深く理解するとともに教材研究に打ち込み、この両者を結合していく資質能力とは使命感に裏打ちされた企画力であり、この専門性こそは「教師」の本領(Educatorship)であるといえよう。(濁川・土井, 2003)

学生は自主的、主体的な意志にもとづいて「信大YOU遊世間」の実践に取り組むことによって、実践的指導力の基礎である企画力・コミュニケーション力を培うとともに、かけがえのない友情を体験し、教職への使命感を深くしている。

### 4. 学生パワーによる地域貢献活動

「産品ブランド」といえば普通、出荷することのできる特色ある「もの(物)」を指すことが一般的である。「物」が「売り」になっているのである。しかし、「信大YOU遊世間」という「地域ブランド」においては、何一つ「売り」に出せる物はない。お金で売れる物は何一つない。それでは一体、何が17年間もこの活動を継続させるエネルギーに成っているのだろうか。それは、「もの(物)」づくりは「もの」づくりでも、「人物」をつくるという「もの(者)」づくりであることにかかっていると考えられる。ここ

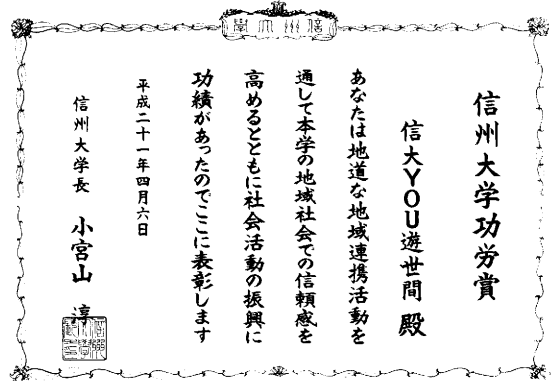
に、学生たちの尊い汗と涙を引き出す無限のエネルギー源があると筆者は考えている。

「信大YOU遊世間」の地域貢献活動に対して学長から右のような信州大学功労賞が授与された。学生たちの地道な活動に対してこのようなご配慮をいただいたことに、学生共々深く感謝している。

学生たちの真摯な労力に対しては、例えば青木村教育委員会事務局の上原博信氏は次のように述べている。「あおきっこ合宿、長泉サマーキャンプ、図書館フェスティバル、ウオークのつどい、産業祭、YOU遊フェスティバル、冬の大三角、児童センターボランティア、一年を通じて青木村の子どもたちのために、青木村まで足を運んで頂き感謝致します。

(中略) 子どもたちももちろん、私にとっても大学生の皆さんが青木村へ来る日が楽しみです。大学生の皆さんも楽しいですか。しかし、楽しいばかりではいけません。大学生の皆さんが、青木村へ来るときは、それ以前、当日、青木村の人が陰で支えていることを忘れてはいけません。(中略)「さすが信大生！」といわれるよう学生の皆さんも一年の振り返り、活動のふりかえりをして下さい。」<sup>4)</sup>

また、「湯谷小子どもランド」の保護者代表である中谷隆秀氏は、学生スタッフが中心になって活動を企画運営するようになってから、活動自体が年々進化してきていると次のように述べている。「以前は保護者が企画運営を行い学生スタッフが“お手伝い”として参加してもらっていましたが、5年前からは企画運営の主体を学生スタッフ自身に任せてきました。学生自身が企画運営するようになって、湯谷小子どもランドの活動は、毎年、毎年内容が充実してきています。任される学生スタッフはとて大変でしょうが、毎年保護者の期待を裏切らない充実ぶりです。その“若さ!”と“知恵!”が湯谷小子どもラン



ドの魅力でもあります。』<sup>5)</sup>

さらに「おみ子ども教室」の谷口ゆかり氏は、学生が大麦の種まきや麦刈りに参加するようになってからは、「村の方と児童たちのコミュニケーションがよりとりやすくなった、児童のやる気が増したり、学生さんたちの初々しい反応が村の方たちの喜びや意欲につながっている、といつも感じます。古遊会代表の宮嶋さんは、“おめえたちな、自分いろいろなこと経験しなきゃ良い先生にはなれねえんだからな”とおっしゃいます。」<sup>6)</sup>

以上のような地域社会の方々の声から伝わってくることは、学生たちがその持てる若さと知恵と汗を流して、思いっきり子どもたちや地域住民の方と触れあっていることである。このような人と人とのふれあいの清々しさ、さわやかさ、喜びこそ、「信大YOU遊世間」という「地域ブランド」の「売り」であり、特質であるといえよう。

## 5. 地域社会との連携構築の工夫

平成22年度の「信大YOU遊世間」という「地域ブランド」には、9つの「「産品ブランド」がある。これらの活動においてご協力頂いている団体・個人は次の通りである。

「信大YOU遊世間」(発足時は「信大YOU遊サタデー」と称した)の取組は、平成6

(1994)年6月6日の実行委員会開催が始まりとなった。その10年後の(平成15年度)から「信大YOU遊世間」と改称し、以来、地域社会のさまざまな団体・個人との連携体制が構築されてきた。その際、大学側から地域社会にお願いしていることは、次の4点である。

- ① 子どもの育成や世代間交流などのふれあい体験ができること。
- ② 学生も企画段階から参画できること。
- ③ 1年間単位での継続的な自然体験や社会体験ができること。
- ④ 子どもの安全等の責任は、その団体において受け持っていただくこと。

これらの条件を規準として両者の間で協議し、合意を形成しながら活動を進めてきている。学生は地域社会のご期待に応えられるよう汗と知恵を発揮することに努めている。

YOU遊の取組をまとめた「報告書」は、今年度で第17集となる。この間、学生は陰に陽に地域社会からご厚誼をいただき教えられ、育てて頂いてきている。学生が地域社会とのふれあいの中から学んだ事は、どの「報告書」にも感動を持って記述されている。これまで長年にわたって大変お世話になっている団体・個人の方々をご紹介します、感謝の意を捧げたいと思う。

#### (1)JA長野中央会・JAながの・長野市農業公社

「人づくり」の智慧を「土づくり」の体験学習を通して学ばせていただいている。学生はその豊かな感性で、農作業体験から実に多くのことを吸収している。

#### (2)長野市茂菅地区農家

「信大茂菅ふるさと農場」の水利用にあたっては、4軒の農家の輪のなかに入れていただき、水管理のお世話になっている。特に地元農家の林部信造氏ご夫妻には、農場と地域社会の調整役としてお世話になっ

ている。

#### (3)長野県長野養護学校保護者の会

お母さん方がお子さんに接しておられる姿を通して、学生は一步一步障害児との関わりを学ばせていただいている。

#### (4)長野市立湯谷小学校保護者の会

子どもの活動のために保護者と学生がどのように連携すればよいのかを試行錯誤しながら学ばせていただいている。

#### (5)長野県教育委員会・長野市教育委員会・青木村教育委員会・麻績村教育委員会・須坂市教育委員会

村や市を挙げて学生を受け入れ、伝統文化が息づく環境の中で学生を育てて下さっている。

#### (6)長野市大岡支所・長野市立大岡小学校・農村女性ネットワーク・放課後子どもプラン

大岡地区で新たなプラザ(産品ブランド)を立ち上げるためにご指導をいただいている。

## 6. 学生同士の切磋琢磨による友情の醸成と社会力の向上

「信大YOU遊世間」という「地域ブランド」が発信源となって、全国の各大学においても「地域ブランド」が発生してきた。主なものに次にあげる。

毎年一度、これらの大学の学生が一堂に集う「全国フレンドシップ活動」が開かれるようになって、平成22年度で11回目になる。このような場で、他大学の学生から「信大生はどうして涙を流すことができるんですか?」と聞かれることがよくあるという。それに対してある学生は次のように応えている。

「やはり、私たちには泣き虫が多いです。素直に人の前で涙が流せる人間関係がそこに生まれているのではないのでしょうか。YOUフェスやキャンプなどのイベントの後の反省

表2. 全国各大学の「地域ブランド」

大学名	地域ブランド名
横浜国立大学	「わくわくサタデー」
上越教育大学	「学びの広場」
福井大学	「探究ネットワーク」
岐阜聖徳大学	「ぐんぐん隊」
鳴門教育大学	「ふれあいアクティビティー」
広島大学	「ゆかいな土曜日」
熊本大学	「メイクフレンズ」

会で私が流した涙は、喜びの涙です。そういう大きなイベントがあるとき、私たちの学生生活の中心はYOU遊のことにになります。本番の何週間も前から、どうやって子どもたちを楽しませようか。どういう仕事をすればよいか、で頭がいっぱいになります。みんなで楽しい企画を考え、大盛り上がりときもありますが、一人で仕事を負ってしまい、何でこんなに大変なんだろうと悩むこともありました。スタッフ同士で意見がぶつかり合い、喧嘩になることもあります。夜遅くまでみんなで準備を続けることもあります。しかし、それを乗り越え、みんなで活動をつくってきて、子どもたちの笑顔を見られたとき、それまでの頑張りが全て喜びに変わります。やってよかった!! 涙の一つの理由はやはりこの達成感です。

そしてもう一つは、感謝の気持ちです。反省会で一番聞かれなのが、『スタッフのみんなががんばってくれたから…』という言葉と、『キャプテンが引っ張ってくれたから…』という言葉だと思います。YOU遊のみんなは、本当に素直に人に感謝を表します。私にはこんなに素敵な仲間がいる。みんなに出逢えてよかった! ありがとう!! 一緒に頑張ってきた仲間の顔を見て、嬉しくて涙が込み上げてきました。私はこんな想いだったと思います。YOU遊で仲間と一緒に頑張り、共に涙を流

したことは、私の一生の宝になると思います。YOU遊を支えて下さり、本当に有り難うございました。今後も私の後輩たちのために、どうぞよろしくお願いします。』<sup>7)</sup>

学生たちはYOU遊という「地域ブランド」を企画運営する中で、自ずと切磋琢磨し合い、友情を醸成し、社会力を形成していることが伺われる。

## 7. 「信大YOU遊世間」における学生の主体性と開放性

「信大YOU遊世間」は「社会体験実習」という授業科目の内容の一部として、金曜日の4コマ目に位置づけられている。しかし、この授業の単位を履修する学生は極めて少ない。ほとんどの学生は単位でもない、アルバイトにもならないこの活動に、人脈を通して主体的に参加している。我々はこのような「信大YOU遊世間」の性格を、「やりたい人が、やりたいことを、やりたいようにやる!」と表現している。活動全体の運営委員長、副委員長をはじめ、各プラザのプラザ長、副プラザ長は、全員立候補によって選出されている。先輩たちの業績のあとを繋ごうという責任感から出発しているのである。

自ら進んで地域貢献に参画しているので、学生たちは他大学の学生に対しても開放的である。平成21年度の活動においては、長野県短期大学、清泉女学院短期大学、飯田女子短期大学、長野大学、松本大学、上越教育大学、横浜国立大学、茨城大学、文教大学、岐阜聖徳大学の学生がこの活動に参加した。もちろん、信州大学の全学部からも参加者があり、喜びを共有しあっている。学生たちがそれぞれの個性を發揮しながら、連帯して子どもたちや地域社会のために奔走している姿は、青春そのものといえよう。

## 8. まとめ

本稿においては、先ず第一に「信大YOU遊世間」という信州大学学生による地域貢献活動は、村山研一の論考に基づいて、「地域ブランド」の範疇に入ることを明らかにした。次いで、「地域ブランド」としての「信大YOU遊世間」の特質として、次の5点を指摘し、その内容について報告した。

- ① 「地域ブランド」を学術研究として実践
- ② 学生パワーによる地域貢献活動
- ③ 地域社会との連携構築の工夫
- ④ 学生同士の切磋琢磨による友情の醸成と社会力の向上
- ⑤ 「信大YOU遊世間」における学生の主体性と開放性

### 【注】

- 1) 村山研一、2007、「地域ブランド戦略と地域ブランド政策」、『地域ブランド研究』3, p.1
- 2) 村山研一、同上p.3
- 3) 信州大学教育学部国際交流室の北澤勝親先生と同教育学部講師のマーク、レベッカ・アン先生のご協力を得た。

- 4) 上原博信、2010、「子ども、大学生、そして自分」『信大YOU遊世間』の教師教育学研究』16, p.54
- 5) 中谷隆秀、2010、「きらきらの笑顔が集まる場所！子どもランドの輝き、いつまでも!!」『信大YOU遊世間』の教師教育学研究』16, p.43
- 6) 谷口ゆかり、2010、「地域の方との関わりのなかで」『信大YOU遊世間』の教師教育学研究』16, p.63
- 7) 土井進、2010、「『信大YOU遊世間』の活動報告」、篠原菊紀・寺沢宏次・柳澤秋孝共著『体動かせ、人と関われ、頭ええ』pp.41-42 ほおずき書房

### 【文献】

- 土井進編著、平成7年（1995）、『平成6年度「信大YOU遊サタデー」の実践—体験的学習の指導による実践的力量の形成—』
- 土井進編著、平成22年（2010）、『「信大YOU遊世間」の教師教育学研究』、16
- 濁川明男・土井進、2003、「今、求められる教員養成における「実践的指導力の基礎」の育成」、『新免許法に対応する教員養成課程体験的カリキュラムの体系的構築に関する実践的研究』、平成12~14年度科学研究費補助金研究成果報告書、pp.3-9
- 土井進編 2004、『信州大学における「地域貢献」の教員養成—「信大YOU遊世間」の実践—』、平成15年度学長裁量経費による研究報告書、信州大学教育学部、全235頁
- 土井進、2005、『教師、その実践的指導力の構造と陶冶—新聞報道にみる信州大学教育学部の実践—』、全67頁、信州大学教育学部

(受稿日 2010. 9. 29 掲載決定日 2010. 10. 13)

(どい・すすむ／信州大学教育学部)